



白漆喰と黒色の柿渋で塗った杉羽目板の対比がモダンな外観



釘や金物に頼らない木組みと、通し貫による伝統工法で建てる



木組みの構造体が美しい空間となっている台所・居間

<西川の家>

地域木材（西川材）を100%使うことにより地産地消を実践し、林業の活性化に貢献している。

釘や金物に頼らない木組みによる伝統工法による家づくりとし、大工技術の継承に務めている。

子育ての終えたご夫婦ふたりだけで住む小さな住宅だが、匠の技を活かして造られた本物の家である。

2階建て主屋は、18cm角の通し柱が現れ、白い漆喰が塗られている真壁造り。下屋は、黒い柿渋で仕上げられた杉羽目板大壁造り。懐かしさのある形態にモダンな味わいを待たせ、この土地に自然ととけ込むような外観としている。

内部空間は、無垢の木と漆喰、和紙といった自然素材で仕上げられていて、人の身体を心地よく包み込み、幸せで健康的な暮らしを与えてくれる。